

## 常任委員会視察報告書

委員会	<p>教育こどもみらい常任委員会 (高橋委員長、前川副委員長、千委員、安立委員、竹田委員、納所委員)</p>
視察先 調査事項 など	<p>1 百舌鳥・古市古墳群の保存管理のあり方について (堺市博物館及び仁徳天皇陵古墳) 10月9日(水) 14時00分～16時00分 説明者：堺市文化観光局 文化庁文化財課、同 世界文化遺産推進室</p> <p>2 茨木っ子グローイングアッププラン(一人も見捨てへん教育)について (大阪府茨木市) 10月10日(木) 10時00分～11時45分 説明者：茨木市教育委員会 学校教育課</p>
視察先 概況	<p><u>1 堺市博物館及び仁徳天皇陵古墳の概況</u> 堺市博物館は昭和55年(1980年)に開館した施設であり、最近の来場者数は年間15～16万人であったところ、令和元年(2019年)7月に百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録された影響により、令和元年度(2019年度)は上半期のみで、すでに約15万人の来場者があったとのことでした。 当初は仁徳天皇陵古墳のみの登録を目指していましたが、専門家から「百舌鳥・古市の古墳群を一体で」という意見があり、古墳群としての登録を目指すことになったそうです。 古墳の保存管理については、古墳の所有者である宮内庁のほか、大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市で構成し、文化庁をオブザーバーとする協議会を設置して、協議が行われています。また、保存管理計画については、個別の古墳ごとにではなく、包括で保存計画を策定しているとのことでした。</p> <p><u>2 大阪府茨木市の概況</u> 茨木市は人口約28万人、面積は約76.5キロ平方メートルで、大阪府の北部に位置する北大阪地区の中核となる都市です。昭和45年(1970年)の大阪万博を機にまちづくりが進展したとのことでした。 歴史の面では、藤原鎌足の墓と伝えられる阿武山古墳が存在するほか、有名な聖フランシスコ・ザビエル像も茨木市で発見されたものです。 また、日本初のノーベル文学賞作家である川端康成が3歳から18歳まで茨木市に暮らしていたことから、名誉市民の称号が贈られており、平成30年(2018年)には市制70周年記念事業として「川端康成青春文学賞」が創設されました。 茨木市の教育は、「一人も見捨てへん教育」をスローガンとしています。「ゆめ力」「自分力」「つながり力」「学び力」「元気力」の五つの力を設定し、学力低位層に着目して、教育委員会と学校がうまく連携することにより、この12年間で着実に学力向上を果たしています。これまで教育委員会が行ってきた取り組み内容、そして現計画である「茨木っ子グローイングアッププラン」の内容や課題について視察を行いました。</p>

高橋浩司  
委員長  
所感

1 百舌鳥・古市古墳群の保存管理のあり方について

(堺市博物館及び仁徳天皇陵古墳)

仁徳天皇陵古墳が厳然と存在する事のアドバンテージを思い知らされました。展示施設も立派で、市の方針がとても明確で、市民や職員が同じ方向を向いて意識を共有していると実感しました。

2 茨木っ子グローイングアッププラン（一人も見捨てへん教育）について

(大阪府茨木市)

一人一人に寄り添う学校運営が、実に細かくロジックに組み立てられていてかなりの児童が、救われている事が確認できました。

市単で、教員補助や事務補助嘱託員を増員している事は、できそうで出来ない事で、実施すれば効果が出る実例として、見習うべき事業と実感しました。

	<p>1 百舌鳥・古市古墳群の保存管理のあり方について  (堺市博物館及び仁徳天皇陵古墳)</p> <p>今年、令和元年（2019）7月6日に世界文化遺産に登録されたばかりであり、天皇や皇族の墓として宮内庁が管理する「陵墓」の登録は初めてのことです。登録後の観光客数は、登録前より3倍となり、委員会で視察した9日当日も4～500名の受け入れをされており、数として大変増加傾向ということですが、</p> <p>陵墓の周りは、宅地造成が大変進んでいるにも関わらず、仁徳天皇陵をはじめとする登録対象となった陵墓の形状を1600年もの長い間守り続けてきたこと、並びに、これまで研究や調査以外は、陵墓内に一般に全く立ち入らせなかったことにより、陵墓内の棺をはじめ、埴輪、金銅製の装身具、鉄製の馬具や武器などの貴重な副葬品が保存されていることが高く評価されています。</p> <p>一方で、130基あったとされる古墳のうち45基が対象になったことから、残りの古墳の保存に対する保存運動も行われているということですが、保存管理計画は、個々ではなく包括的に進めています。</p> <p>古墳群に隣接する堺市博物館内には、ヴァーチャルカメラによりドローンから見降ろした仁徳天皇陵とその周辺を1600年前の光景にタイムスリップしたり、現在に戻りつつながら、全長486メートル、高さ35.8メートル、体積140万立方メートルある墳墓が如何に巨大か、ということが体験できるようになっています。この体験は非常に貴重であることがわかります。</p>
<p>前川綾子 副委員長 所 感</p>	<p>2 茨木っ子グローイングアッププラン（一人も見捨てへん教育）について  (大阪府茨木市)</p> <p>茨木市は、川端康成氏が3歳から16年間暮らした町で、鎌倉市と同様に名誉市民となっています。そのことから「川端康成が学んだ教育のまち茨木」としています。</p> <p>茨木市には、小学校32校、中学校14校があり、幼保小中連携によって、課題のある子ども達が段差で躓いてしまわないように、「一人も見捨てへん教育」を進めています。この教育方針は、平成20年から現在に至るまで、計画は第4次を迎えています。</p> <p>全国学力状況調査の結果を受けて、学力低位層と学力高位層の開きに注目し、特に低位層の子ども達への学力そして生活面での支援の強化の取り組みです。そのためには、各学校の全国学力状況調査の公表を実施しています。平成20年からこの教育プランを推進していく中での様々な改善のための工夫や課題を乗り越えながら、人的支援には多額の予算を投じているということです。</p> <p>このプランは、大阪大学 志水宏吉教授がアドバイザーとなって進められています。その評価は、平成20年からの10年間で茨木市の学力が全国トップレベルまでに向上した学力を維持し、右肩上がりの成長を求めるのではなく、良好な水準を持続していくことを目指していくことだ、とされています。</p> <p>引き続き、ゆめ力・自分力・つながり力・学び力・元気力といったこのプランの5つの力を子どもから引き出す取り組みを進めることで、維持されていくことと感じました。第5次のプランでは、現在世界的に注目を集めている「非認知能力」を高めるための内容を盛り込む予定ということですが、</p>

	<p>1 百舌鳥・古市古墳群の保存管理のあり方について (堺市博物館及び仁徳天皇陵古墳) 博物館ではあのような大きな鉄砲が目についた。 機械で古墳群を見せられた時は、私には解説だけは聞こえたものの、機械が目からずれてしまい、ほとんど見えなかったことがとても残念に思った。 そして仁徳天皇陵など百個の古墳の中から宮内庁が保存のもと 44 個が残されているということでやはり世界遺産にはふさわしく思えた。</p>
千 一 委員 所感	<p>2 茨木っ子グローイングアッププラン (一人も見捨てへん教育) について (大阪府茨木市) 茨木市でさえも不登校の数は、増えているということで驚きを感じた。 小学校では1年間で2校にエレベーターが付けられているということで羨ましく思った。</p>

	<p>1 百舌鳥・古市古墳群の保存管理のあり方について  (堺市博物館及び仁徳天皇陵古墳)</p> <p>仁徳天皇陵古墳は堺市の住宅地内に保存されており、百舌鳥エリア、古市エリアには大小多数の古墳があることにも驚きました。世界遺産登録の実現に至る所までには市民、地元住民の多大な理解と努力もあったかと思えます。</p> <p>現地に行くと、足を運んだだけでは古墳の魅力は分かりづらい、実感しづらいところが見えてきました。古墳が築かれた当時の外見は全くみえません。</p> <p>古墳の見せ方や、価値を知ってもらう工夫は今後の課題の1つでもあるそうですが、VRツアーで仁徳天皇陵古墳を上空から眺め、古墳内部の再現や、古墳時代の人々視点で当時を体感できたところは、歴史的な背景が分かりやすく、訪れた観光客の満足度の向上に繋がっていると感じました。</p> <p>古墳の呼び名についてもいろいろあり、百舌鳥・古市古墳群と言ってもイメージしにくい実情です。現在は宮内庁の管轄下におかれ、皇室の先祖を祀る公的祭祀の対象として厳重に保護され、国と堺市とで調査はされていますが、実態はまだ分からない点が多くあります。</p> <p>堺市博物館では土器や、火縄銃などの古代から近代のものが展示されていました。駆け足の説明・見学だったので、もう少し展示物をゆっくり見学したかったです。</p>
<p>安立奈穂 委員 所感</p>	<p>2 茨木っ子グローイングアッププラン（一人も見捨てへん教育）について  (大阪府茨木市)</p> <p>取り組みを始めたきっかけは、全国学力・学習状況調査の結果からです。正解率40%以下の学力低位層を減らすことを目標とした学力向上プランですが、ベースには「総合的な育ち」もあります。教育施策では5つ力の育成の設定もされて、人間力の向上にも努めています。現場では子どもたちを支援する多くの支援員やサポーターを小中学校に配置していますが、その手厚さにはとても驚きました。教員免許を取得している主婦などが担う学習サポーターの配置は46校中44校へ2～4名です。その他を含め人的配置に約3億円がかけられています。教職員専門サポーターや業務改善サポートチームの派遣等も大きな支えになっているのではないのでしょうか。多忙化の解消は、子どもたちと向き合う時間の確保と教育の充実へつながります。幼保小中連携は小中1年生の壁につまずく子どもたちをサポートする成果には繋がっているそうです。</p> <p>教育委員会・学校が連携した学力向上担当者会では、計画が進むにつれ全体の意識も向上し9年目のアンケート調査では学力向上担当者会が学校の学力向上の取組推進に有効であったと答える割合が97.9%となりました。その役割は大きく実質的に機能し、大阪大学・志水教授も評価しています。プラン策定から13年目となり、今後の第5次計画では、非認知能力へ着目した計画が進められています。学校現場の多忙化の解消を進めるための3点①教育委員会（環境整備）②学校組織（学校業務や組織の見直し）③教員自身（自分自身の働き方の見直し）は本市も今後の参考にし、教育現場の課題解決に向け出来ることからチャレンジし、子どもたちの育ちの充実に役立てていきたいです。</p>

竹田ゆかり 委員 所感	<p>1 百舌鳥・古市古墳群の保存管理のあり方について (堺市博物館及び仁徳天皇陵古墳)</p> <p>① 世界遺産登録までの取り組み 2005年 仁徳天皇陵古墳のみでの登録を目指す 専門家より「百舌鳥古墳群」とすべきとの指摘あり 2007年 文化庁より世界遺産として認められそうなものの提案を求められる 4回目の挑戦で候補となる この間不足した部分(保存管理計画の仕組みづくり等)の取り組み (1回目) 緩衝地帯の設定→高さ制限 色彩制限 屋外・屋上広告禁止 (2回目) 資産の数絞り込み 49基 属性 a. b. c の内容について検討 2018年 ユネスコへ推薦書提出→イコモス現地調査→イコモスによる勧告→2019年 世界遺産登録</p> <p>② 開発に関するイコモスの評価 1600年間守られてきた 地元住民の理解があった 陵墓立ち入りができないことが評価された</p> <p>③ 遺産影響評価(HIA)の実施が求められている</p> <p>④ 台風21号後、倒木 墳丘が崩壊していないかモニタリングを実施→報告する 緩衝地帯の拡大が求められている</p> <p>⑤ 所有者・管理団体からなる協議会が設置されている</p> <p><b>感想</b>…鎌倉市に欠けている「顕著な普遍的価値」が、特異な墳丘(前方後円墳)、中小古墳群により当時の政治・社会構造などを証明している。</p>
	<p>2 茨木っ子グローイングアッププラン(一人も見捨てへん教育)について (大阪府茨木市)</p> <p>① 2006年 大阪府の学力実態調査→ふたこぶラクダ(低位層と高位層)</p> <p>② 指導主事の話し合いからスタート 「子どもに育むべき力は何か」</p> <p>③ 2008年 学校現場に計画案を卸す 学校現場で1年間話し合い 研究交付金をつける 3か年計画スタート</p> <p>④ 2013年 学力テストの平均点を上げるのではなく、「しんどい層の学力」を引き上げることに注力 確かな基礎学力をつけることに</p> <p>⑤ 現場への人的支援の予算化 学力テストの結果をもって市長へのプレゼン実施 3億円の予算措置 学校に応じた柔軟な予算配分</p> <p>⑥ 学力向上担当者会設置 学校現場の悩みの共有に有効 徐々に理解が得られるようになっていった</p> <p>⑦ 2017年 第4次計画 学力を下支えする支援員、専門家の配置 市独自の「五つの力」を設定 テストで測れない力の可視化 テスト結果公表よりもテスト結果を生かす 学校の業務改善</p> <p>⑧ 不登校児童生徒は増加傾向 (中一ギャップは減ったが…。)</p> <p>⑨ 保護者の感想→否定的な感想あり(わが子は学校が楽しいと思っていない…など)</p> <p><b>感想</b>…2008年から始まった「一人も見捨てへん」教育は教育委員会から降ろす形でスタートした。点数で測る学力は向上したが、一方で、課題を抱えることにもなった。学ぶ楽しさが生きる力・学ぶ力につながる大切</p>

<p>納所輝次 委員 所感</p>	<p>1 百舌鳥・古市古墳群の保存管理のあり方について (堺市博物館及び仁徳天皇陵古墳)</p> <p>世界文化遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群は、多数の古墳が市街地に密集するのが特徴。宅地造成など「都市における開発圧力」に対し、後世に残す上での保存や管理のあり方を確認したところ、バッファゾーンの設定では、建築物の高さや色、屋外広告物に規制をかけているが、その設定では地元住民とのコミュニケーションを密にして、理解を深めてもらっているとのこと。</p> <p>また資産を絞り込んで保存管理計画を策定しており、開発と保存の両立を図っているとのこと。</p> <p>墳丘の維持については陵墓であることから樹木には手を加えず維持管理を行っているとのこと。</p> <p>観光客など来訪者への対応については、ICOMOS 勧告のあとでは堺市博物館への入館者が年 15～16 万人だったが、世界文化遺産登録後は昨年比で 3 倍に増加したことから、ボランティアガイドを含め、陵墓への静謐と尊厳の維持に注意を払っているとのことであった。</p> <p>市街地に密集する古墳群の保存については文化庁と地元自治体が連携し、ガイダンス施設などの施設整備や留意点を洗い出し影響評価の手法を確立する必要があるとの感想を持った。</p>
	<p>2 茨木っ子グローイングアッププラン（一人も見捨てへん教育）について (大阪府茨木市)</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果をもとに茨木っ子グローイングアッププラン（一人も見捨てへん教育）として学力向上への取り組みを行っている茨木市教育委員会の取り組みでは、結果を比較用エクセルシートで比較分析し、成績が両極分化していたことから、特に成績下位層への働きかけを行ったという。</p> <p>生活習慣が成績にも影響することから、学習への取り組みのみならず、生活全般にわたる働きかけを学校一丸となって行っているという。</p> <p>学力向上を意識した取り組みは反発を招きやすいが、現場と教育委員会が本音の段階で意識を共有できるまで議論を重ねたという取り組みはかなりの労力が必要であったと思われる。</p> <p>しかしその結果、教育予算の獲得につながり、予算を基に現実的な取り組みが可能になったと思われる。</p> <p>認知能力や運動能力など点数化が可能な分野から意欲、忍耐力、自制心、思いやり、コミュニケーション力など点数化が困難な非認知能力にまでわたるグローイングアッププランはチームとして取り組まなければ難しいプランであるが、関係者が一丸となつてのその取り組みは高く評価すべきであると思う。</p>